

令和 5 年 2 月 15 日（水）

県民生活課

## 高知県食品ロス削減推進計画に基づく取組状況等

1	高知県食品ロス削減推進計画進捗管理表 .....	1
2	食品ロス削減月間啓発広告（10 月 1 日掲載） .....	7
3	令和 4 年度県民世論調査結果 .....	8
4	食品ロス実態調査結果 .....	10

## 高知県食品ロス削減推進計画進捗管理表

### (1) 食品ロス削減に向けた広報・啓発、教育

成果目標(令和7年度)

- (1) 県内の食品ロス発生量を4年間で現状より5.2%削減する。
- (2) 食品ロス問題を認知し、食品ロス削減に取り組む県民の割合を令和7(2025)年度まで90%以上にする。
- (3) 食べない食品や利用しない食材等をフードバンク等に寄附をする県民の割合を令和7(2025)年度までに3.4%以上にする。

R4.12末時点

実施項目 取組施策	計画(P)		実行(D)	進捗状況		計画 冊子 記載 ページ	担当課
	R4年度 取組内容	左記のうち食品ロス削減月間(10月)に向けた取り組み	R4年度 実施状況	評価	△又は×の場合 今後の取組		
項目 (ア) 食品ロスの現状の把握 施策 家庭から発生する食品ロスの実態を組成調査を実施することで把握します。	○高知市及び四万十町において家庭から発生する食品ロスの組成調査を実施し、令和4年度の家庭系食品ロス量を推計し、成果目標(1)の進捗状況を把握する。 ○組成調査で得られた結果等を活用し、県民に「自分事」として認識してもらえるような啓発を行う。	—	○食品ロスの組成調査を下記のとおり実施した。 ・高知市(11/22) ・四万十町(12/5)	○ 計画どおり 取り組んでいる		23	県民生活課
項目 (イ) 食品ロスの削減の意義の広報啓発 施策 食品ロス問題を知ってもらい、家庭生活の中ですぐに行える身近な取組を紹介したリーフレットを作成し、県民の目に触れる場所に配布します。	○(ア)の調査結果等を反映させた啓発リーフレットを作成し、市町村やスーパーマーケット、コンビニ、公共施設等に設置する。 ○高知新聞にペンシル広告を掲載し、食品ロス問題について広報を実施する。	—	○高知新聞にペンシル広告を下記のとおり掲載した。 ・7/20【みんなで減らそう食品ロス】 ・9/16【賞味期限はおいしく食べられる期限】 ・12/9【外食時もおいしく食べきり】 ・1/12【リメイク料理にチャレンジ！】(予定)	△ 遅れている	ペンシル広告については、予定どおり実施できている。啓発リーフレットの作成が遅れているが、今年度中に作成・配布。	23	県民生活課
項目 (ウ) 期限表示の正しい理解促進 施策 「賞味期限」と「消費期限」の違いを理解してもらうため、啓発物やラジオ等を活用し広く周知を行います。	○下記の媒体で広報を実施する。 ・(イ)で作成する啓発リーフレット ・高知新聞 ・生活情報誌 ・ラジオ広報	○左記のうち、10月には下記媒体で広報を実施する。 ・高知新聞 ・生活情報誌 ・ラジオ広報	○9/6 ラジオ広報 ○9/16 高知新聞にペンシル広告【賞味期限はおいしく食べられる期限】を掲載(再掲)	○ 計画どおり 取り組んでいる		23	県民生活課
項目 (エ) 食品ロス削減月間(10月)・食品ロス削減の日(10月30日)の広報 施策 食品ロス削減月間にポスター掲示やラジオ、新聞等への広報を通じて、食品ロス削減月間・削減の日の広報を実施します。	○下記広報媒体で広報を実施する。 ・(イ)で作成する啓発リーフレット ・高知新聞 ・生活情報誌 ・ラジオ広報 ・さんSUN高知 ・ポスター	○左記のうち、10月には下記媒体で広報を実施する。 ・高知新聞 ・生活情報誌 ・ラジオ広報 ・さんSUN高知 ・ポスター	○10月の食品ロス削減月間に下記媒体で食品ロス削減月間(10月)・食品ロス削減の日(10月30日)について広報を実施した。 ・10/1高知新聞 ・10/4ラジオ広報 ・10/13生活情報誌 ・さんSUN高知(10月号) ・ポスター県庁内掲示(10/17～28) など	○ 計画どおり 取り組んでいる		23	県民生活課

## 高知県食品ロス削減推進計画進捗管理表

### (1) 食品ロス削減に向けた広報・啓発、教育

成果目標(令和7年度)

- (1) 県内の食品ロス発生量を4年間で現状より5.2%削減する。
- (2) 食品ロス問題を認知し、食品ロス削減に取り組む県民の割合を令和7(2025)年度まで90%以上にする。
- (3) 食べない食品や利用しない食材等をフードバンク等に寄附をする県民の割合を令和7(2025)年度までに3.4%以上にする。

R4.12末時点

実施項目 取組施策	計画 (P)		実行 (D)	進捗状況		計画 冊子 記載 ページ	担当課
	R4年度 取組内容	左記のうち食品ロス削減月間 (10月)に向けた取り組み	R4年度 実施状況	評価	△又は×の場合 今後の取組		
項目 (オ) 食育を通じた食品ロス削減意識の醸成 施策 ヘルスメイト(食生活改善推進員)が健康講話や調理実習、試食(共食)の機会を提供することにより、食物への感謝の気持ちを醸成します。	下記取組を全市町村で実施。 (計102回開催予定) ・健康講話 ・指導教材テキストの配布 ・食育啓発資料の配布 ・調理実習と試食	左記取組について、県内11市町村で計20回開催予定。	26市町村計76回開催	○ 計画どおり 取り組んでいる		24	保健政策課
項目 (オ) 食育を通じた食品ロス削減意識の醸成 施策 給食の時間に学校給食を教材とした食品ロスに関する指導を実施します。また、社会科や家庭科、総合的な学習の時間などにおいて、食品ロスに関する指導を行います。	○学級担任、教科担任による食品ロスと関連する教科での指導、栄養教諭による給食の時間における食に関する指導において、食品ロスの指導を行っている。	○教育委員会を通じて、食品ロス月間の周知、食品ロス月間における指導強化の依頼。	各学校において、適切に指導が行われている。	○ 計画どおり 取り組んでいる		24	保健体育課

## 高知県食品ロス削減推進計画進捗管理表

### (2) 食品ロスの発生抑制 ア 消費者に向けた呼びかけ

成果目標(令和7年度)

- (1) 県内の食品ロス発生量を4年間で現状より5.2%削減する。
- (2) 食品ロス問題を認知し、食品ロス削減に取り組む県民の割合を令和7(2025)年度まで90%以上にする。
- (3) 食べない食品や利用しない食材等をフードバンク等に寄附をする県民の割合を令和7(2025)年度までに3.4%以上にする。

R4.12末時点

実施項目 取組施策	計画(P)		実行(D)	進捗状況		計画 冊子 記載 ページ	担当課
	R4年度 取組内容	左記のうち食品ロス削減月間(10月)に向けた取り組み	R4年度 実施状況	評価	△又は×の場合 今後の取組		
<p>(ア) 食品ロスの削減の意義の広報啓発</p> <p>食品ロス問題を知ってもらい、家庭生活の中ですぐに行える身近な取組を紹介したリーフレットを作成し、県民の目に触れる場所に配布します。(再掲)</p>	<p>(再掲)</p> <p>○(1)(ア)の調査結果等を反映させた啓発リーフレットを作成し、市町村やスーパーマーケット、コンビニ、公共施設等に設置する。</p> <p>○高知新聞にペンシル広告を掲載し、食品ロス問題について広報を実施する。</p>	-	<p>(再掲)</p> <p>○高知新聞にペンシル広告を下記のとおり掲載した。</p> <p>・7/20【みんなで減らそう食品ロス】</p> <p>・9/16【賞味期限はおいしく食べられる期限】</p> <p>・12/9【外食時もおいしく食べきり】</p> <p>・1/12【リメイク料理にチャレンジ!】(予定)</p>	△ 遅れている	<p>ペンシル広告については、予定どおり実施できている。啓発リーフレットの作成が遅れているが、今年度中に作成・配布。</p>	24	県民生活課
<p>(イ) 家庭における食品ロスのモニター調査</p> <p>家庭から出される食品ロス量を実際に自分で計量し、自らが発生させている食品ロス量を認識すること等を通じて、県民に食品ロス問題を啓発することを目的に、県内でモニターを募集し、家庭での食品ロス量の記録をつけてもらうモニター調査を実施します。また、調査結果を今後の取組に活かしていきます。</p>	<p>○今年度は、食品ロスのモニター調査ではなく、職員向けの啓発を強化するため、羅針盤のアンケート機能を利用し、職員向けアンケートを実施する。そして、その結果を基に庁内で啓発を実施する。</p>	<p>○左記取組のうち、アンケートを食品ロス削減月間に実施する。</p>	<p>○10月の食品ロス削減月間に、職員向けアンケートを実施した。</p> <p>○アンケート結果を基に、「3010運動」を庁内で啓発した。</p>	○ 計画どおり取り組んでいる		24	県民生活課
<p>(ウ) 高知県地球温暖化防止県民会議県民部会で「環境にやさしい買い物キャンペーン」を実施</p> <p>プラスチックや輸送エネルギー、食品ロスの削減につながる「環境にやさしい買い物」の実践回数によるCO2削減量を集計し、集計結果に応じて表彰します。</p>	<p>○「環境にやさしい買い物キャンペーン」の実施(消費・賞味期限が近いものの購入等)により、食品ロス削減等環境に配慮した消費行動を促す。</p> <p>○環境にやさしい買い物回数を入力することでCO2削減量が見える化する「web版環境パスポート」を開始し、啓発を図る。</p>	<p>○10/1～11/30の期間で、「環境にやさしい買い物キャンペーン」を実施する。「環境パスポート」とも連携し、「環境パスポート」を利用して同キャンペーンへ参加することも可能とする。</p> <p>○9/1～「環境パスポート」サイトを稼働する。</p>	<p>○10/1～11/30の期間で「環境にやさしい買い物キャンペーン」を実施。チラシ配布等により広報啓発を行った。(参加者数等は集計中)</p> <p>○9/1～「環境パスポート」サイト稼働。環境にやさしい買い物回数の入力によりCO2削減量が見える化するのと同時に、賞品があたるキャンペーンに応募できるポイントを付与することで、啓発を行っている。(12/31時点利用者数:636人)</p>	○ 計画どおり取り組んでいる		24	環境計画推進課
<p>(エ) 家庭での備蓄についてホームページや啓発冊子で「ローリングストック」を啓発</p> <p>家庭での備蓄についてホームページや防災啓発冊子「南海トラフ地震に備えちよき」の中で「ローリングストック」(普段から食べている食材を「備える」「食べる」「補充する」と繰り返す方法)の取組を紹介し、</p>	<p>○テレビCM放送</p> <p>○SNSを利用した情報発信</p> <p>○県内量販店と協力した啓発</p> <p>○啓発動画をHPに公開</p>	<p>○テレビCMの作成</p> <p>○県内量販店と協力した啓発</p> <p>○啓発動画をHPに公開</p>	<p>○テレビCMでのローリングストックの啓発</p> <p>○防災アニメを活用したローリングストックの啓発</p> <p>○SNSを利用したローリングストックの啓発</p> <p>○県内量販店と協力した啓発</p> <p>○啓発動画をHPに公開</p>	○ 計画どおり取り組んでいる		25	南海トラフ地震対策課

高知県食品ロス削減推進計画進捗管理表

(2) 食品ロスの発生抑制 イ 農林漁業者・食品関連事業者に向けた呼びかけ

成果目標(令和7年度)

- (1) 県内の食品ロス発生量を4年間で現状より5.2%削減する。
- (2) 食品ロス問題を認知し、食品ロス削減に取り組む県民の割合を令和7(2025)年度まで90%以上にする。
- (3) 食べない食品や利用しない食材等をフードバンク等に寄附をする県民の割合を令和7(2025)年度までに3.4%以上にする。

R4.12末時点

実施項目 取組施策	計画(P)		実行(D)	進捗状況		計画 冊子 記載 ページ	担当課
	R4年度 取組内容	左記のうち食品ロス削減月間 (10月)に向けた取り組み	R4年度 実施状況	評価	△又は×の場合 今後の取組		
<p>項目 (ア)生産・流通等の各段階で生じる食品ロス削減の促進</p> <p>施策 ホームページ等を活用しながら、事業者に向けて生産・流通等の各段階で生じる食品ロス削減の取組事例の周知を行います。(季節商品の需要に見合った販売促進、外食事業者の小盛等の取組促進、自己責任の範囲で「持ち帰り」を行うことを当たり前とする啓発など)</p>	<p>○当課のHP上で、事業者に向けて生産・流通等の各段階で生じる食品ロス削減の取組事例等の周知を行う。</p>	—	<p>○季節商品の需要に見合った販売について協力を呼びかけるため、当課のHP上で、食品小売事業者に向けて、「恵方巻きシーズンにおける食品ロス削減の取組」について周知を実施している。</p>	○ 計画どおり 取り組んでいる		25	県民生活課
<p>項目 (ア)生産・流通等の各段階で生じる食品ロス削減の促進</p> <p>施策 食品加工事業者を中心に、県内事業者に対してフードバンク等の取組を紹介し、賞味・消費期限が迫った商品の活用を促進します。 食品ロス削減に関する国や県の動きについて、県内事業者者に情報提供し、原材料の廃棄ロス削減等による生産性向上に繋がるよう啓発を行います。</p>	<p>・食品加工事業者を中心に、県内事業者に対してフードバンク等の取組を紹介し、賞味・消費期限が迫った商品の活用を促進する。</p> <p>・食品ロス削減に関する国や県の動きについて、県内事業者者に情報提供し、原材料の廃棄ロス削減等による生産性向上に繋がるよう啓発を行う。</p>	<p>・メールマガジン(約760社)を活用し、フードバンク等の取組を紹介する。</p>	<p>・5/18デジタル技術セミナーを開催@ちよテラホール ⇒作業効率、労働生産性の向上を目的としたデジタル技術の紹介セミナーにおいて、計量、配合ミスをなくし、食品ロスの削減にもつながるIoTシステムを紹介(9社23名参加)</p> <p>・8/8メールマガジンにて、こうちSDGs推進企業登録制度(令和4年度第2回)募集開始をお知らせ</p>	○ 計画どおり 取り組んでいる		25	地産地消・ 外商課
<p>項目 (ア)生産・流通等の各段階で生じる食品ロス削減の促進</p> <p>施策 余剰在庫や廃棄原材料を活用した商品開発・販売を促進することで、農林漁業者・食品関連事業者の生産段階での食品ロスを削減するとともに、新たな価値の付加による魅力ある新製品の創出を支援します。</p>	<p>「フードテックによる有用バイオマスの研究開発」に取り組む(R4~R6)。 (内容) 搾汁残さや糠をバイオエタノールに変換し、化粧品等への応用を図る。また糖質素材を昆虫タンパク質へと変換し、新規食品の開発に応用する。</p>	—	<p>バイオエタノールに関する基礎研究や有用タンパク源の探索を実施中。</p>	○ 計画どおり 取り組んでいる		25 26	工業振興課
<p>項目 (ア)生産・流通等の各段階で生じる食品ロス削減の促進</p> <p>施策 県内の中小企業関係団体を通じて、チラシ等の配布、広報誌への掲載等により、食品関連事業者以外の事業者も含め啓発を図ります。</p>	<p>県や市町村のチラシやパンフレットにより、中小企業関係団体を通じ啓発を行う。</p>	—	<p>6商工会議所、商工会連合会にポスターの掲示を依頼するとともに、チラシの配布による事業者への周知を依頼。</p>	○ 計画どおり 取り組んでいる		26	経営支援課

## 高知県食品ロス削減推進計画進捗管理表

### (2) 食品ロスの発生抑制 ウ 消費者と農林漁業者・食品関連事業者双方に向けた呼びかけ

成果目標(令和7年度)

- (1) 県内の食品ロス発生量を4年間で現状より5.2%削減する。
- (2) 食品ロス問題を認知し、食品ロス削減に取り組む県民の割合を令和7(2025)年度まで90%以上にする。
- (3) 食べない食品や利用しない食材等をフードバンク等に寄附をする県民の割合を令和7(2025)年度までに3.4%以上にする。

R4.12末時点

実施項目 取組施策	計画(P)		実行(D)	進捗状況		計画 冊子 記載 ページ	担当課
	R4年度 取組内容	左記のうち食品ロス削減月間 (10月)に向けた取組み	R4年度 実施状況	評価	△又は×の場合 今後の取組		
<p>項目 (ア) 規格外や未利用の農・水産物の有効活用に係る普及啓発</p> <p>施策 規格外や未利用の農産物をフードバンクに寄附する取組の紹介など、農産物の食品ロスが削減できるよう普及啓発活動を行います。</p>	<p>○規格外や未利用の農産物をフードバンクに寄附する取組の紹介など、農産物の食品ロスが削減できるよう普及啓発活動を行う。</p>	—	<p>○中国四国農政局等から食品ロスに関する周知依頼があった次の内容について、県内各市町村へ周知を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロス削減のための消費者啓発に取り組む小売・外食事業者、地方公共団体の募集</li> <li>・商慣習見直しに取り組む事業者の募集</li> </ul>	○ 計画どおり 取り組んでいる		26	農業政策課
<p>項目 (ア) 規格外や未利用の農・水産物の有効活用に係る普及啓発</p> <p>施策 魚食普及活動による魚のさばき方、料理方法等(内臓料理)による魚の有効利用(残さの減少)の普及やサメ等の未利用魚の活用について検討します。</p>	<p>・魚食普及活動 県内の小学校等において県産水産物等に関する学習と調理体験による食育授業の実施 R4年度実施計画:16回</p> <p>・サメ等の未利用魚の活用 年間複数回実施するサメ駆除等で漁獲したサメの魚肉等を県内外へ販売し、有効活用する。</p>	<p>・魚食普及活動 食育授業:10月に7回実施</p> <p>・サメ等の未利用魚の活用 黒潮町及び土佐清水市の学校給食にて毎月1回の定番メニュー化 サメ肉の県外既存取引先への販売及び県外新規取引先への販促</p>	<p>・魚食普及活動 食育授業:12回実施(12月末時点)</p> <p>・サメ等の未利用魚の活用 4/13、14 シーフードショー大阪にサメ肉を出展 8/6 サメ駆除により、約300kgのサメ肉を確保し、既存取引先(学校給食及び県外業者1社)へ納品。また、見本市で名刺交換した県外業者2社へサンプルを出荷 8/20 サメ駆除により、約300kgのサメ肉を確保 10月、11月 黒潮町の学校給食において提供(各月1回) 11/9 高知県中華料理生活衛生同業組合へ30kgを納品 12/5 8月にサンプル提供した県外業者1社へ96kgを納品(残り1社についても1月中旬に190kgを納品予定)</p>	○ 計画どおり 取り組んでいる		26	水産業振興課
<p>項目 (イ) 「高知県リサイクル製品等認定制度」に基づく、リサイクル製品や取組の認定を通じた食品廃棄物削減の支援</p> <p>施策 食品廃棄物削減に係る製品や取組を認定し、パンフレットの配布やホームページでの紹介、各種展示などを通じて普及促進を図ります。</p>	<p>・R3年度高知県リサイクル製品等認定制度パンフレットを関係団体等へ送付</p> <p>・高知県リサイクル製品等認定制度のパネル展示(オーテピア、県庁ロビー等)</p> <p>・R4年度高知県リサイクル製品等認定制度募集チラシ配布</p>	—	<p>・R3年度高知県リサイクル製品等認定制度パンフレットを関係団体等へ送付</p> <p>・高知県リサイクル製品等認定制度のパネル展示(6/9～6/15 オーテピア)</p> <p>・R4年度高知県リサイクル製品等認定制度募集チラシ配布(受付期間6/1～8/31)</p>	○ 計画どおり 取り組んでいる		26	環境対策課

## 高知県食品ロス削減推進計画進捗管理表

### (3) 未利用食品の活用推進

成果目標(令和7年度)

- (1) 県内の食品ロス発生量を4年間で現状より5.2%削減する。
- (2) 食品ロス問題を認知し、食品ロス削減に取り組む県民の割合を令和7(2025)年度まで90%以上にする。
- (3) 食べない食品や利用しない食材等をフードバンク等に寄附をする県民の割合を令和7(2025)年度までに3.4%以上にする。

R4.12末時点

実施項目 取組施策	計画(P)		実行(D)	進捗状況		計画 冊子 記載 ページ	担当課
	R4年度 取組内容	左記のうち食品ロス削減月間 (10月)に向けた取り組み	R4年度 実施状況	評価	△又は×の場合 今後の取組		
項目 (ア) フードバンク活動の周知  施策 ホームページにフードバンクの概要や団体ホームページのリンク等の情報を掲載することで、フードバンク・フードドライブ活動への理解を促進するとともに、食料提供の増を図ります。その他、テレビやラジオ、SNS等によりフードバンク・フードドライブ活動やイベント実施等のタイミングを押さえた情報提供を行い、活用の周知や食料提供の増を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページにフードバンクの概要や団体ホームページのリンク等の情報を掲載する。</li> <li>・国のフードバンク活動支援事業費補助金を活用し、団体の活動を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フードバンク活動団体によるイベントの実施(10月予定)を、テレビやラジオ、SNS等により広報を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページにフードバンクの概要や団体ホームページのリンク等の情報を掲載。</li> <li>・高知県フードバンク活動支援事業費補助金を活用し、団体の活動を支援。 ⇒1団体に交付決定(10月17日事業着手)</li> </ul>	○ 計画どおり 取り組んでいる		26	地域福祉 政策課
項目 (イ) 「フードドライブの手引き」の作成  施策 家庭で余っている食品を、食料を必要としている方に寄附する「フードドライブ」の取組について、寄附先を増やしていくため、実施する際の手順や衛生管理への留意点などをまとめた手引きを作成し、周知します。	関係課や関係団体等に意見を伺いながら「フードドライブの手引き」を作成し、市町村や量販店等に配布する。	—	○「フードドライブの手引き」を作成中。	○ 計画どおり 取り組んでいる		26 27	県民生活課
項目 (ウ) 期限が近づいている災害用備蓄食料の防災訓練等での利活用  施策 県が備蓄している災害用備蓄食料のうち、賞味期限が近づいているものについては、地域や市町村等が行う防災訓練等で利活用しており、この取組を継続して実施していきます。	賞味期限が近づいている災害用備蓄物資を市町村を通じて、地域の防災訓練等で利活用する。	—	市町村と配布数量について調整済み。 市町村へ配布済み	○ 計画どおり 取り組んでいる		27	南海トラフ 地震対策課

# みんなで減らそう食品ロス! ~10月は食品ロス削減月間・10月30日は食品ロス削減の日~

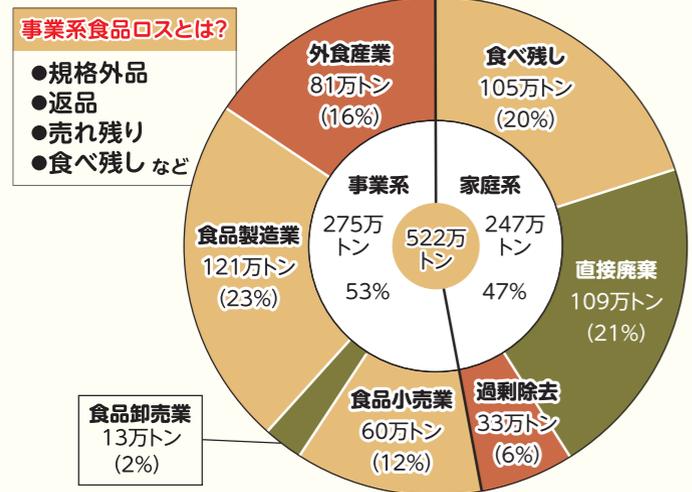
## 1 食品ロスとは?

食品ロスとは、「本来食べられるにもかかわらず捨てられている食品」のことです。日本では、食品ロスが年間522万トン発生(※)しており、これは、国民一人当たりで換算すると年間41kg、毎日おにぎり1個分の食べ物を捨てている計算になります。  
 ※農林水産省と環境省による令和2年度推計値



## 2 なぜ発生?食品ロス

食品ロスの発生状況(令和2年度推計)※



**POINT** 食品ロス削減のためには、事業者、家庭が双方で取り組む必要があります。  
 ※農林水産省と環境省による推計値を基に作成

## 3 食品ロスは何が問題?

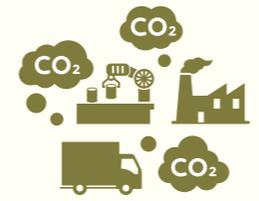
### 食料問題

世界では、10人に1人が飢えや栄養不良に苦しんでいる中、日本は、とりわけ大量の食料を輸入する一方で、大量の食品ロスを発生させています。



### 環境問題

食品ロスの発生は、食品の生産や廃棄に関わる資源やエネルギーが無駄になるだけでなく、焼却処理時等に地球温暖化の原因となるCO<sub>2</sub>が排出されるなど、環境問題と密接に関係しています。



### コスト問題

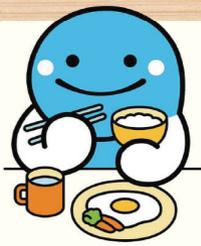
食品ロスを含む一般廃棄物の処理経費は約2兆円/年です。



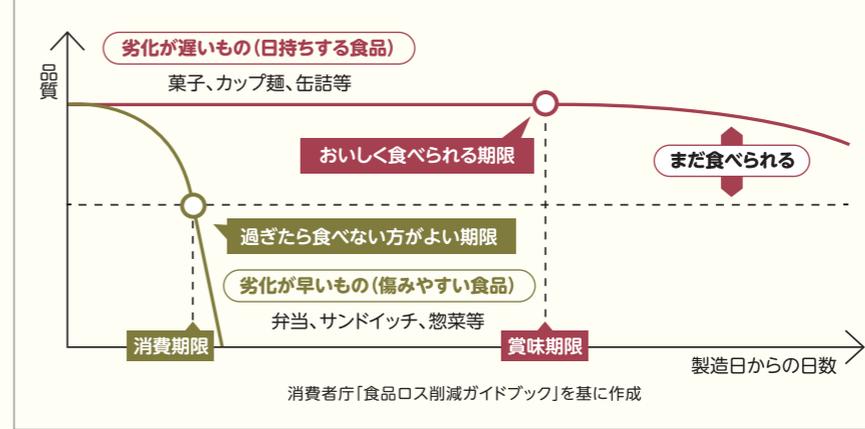
など

## 4 すぐにできる食品ロス削減の取組

- 家庭で食品ロスを減らすコツ  
 買い物をする時は「**買すぎない**」、料理の際は「**作りすぎない**」、食事の際は「**おいしく食べきる**」
- 期限表示を正しく理解!賞味期限は「**おいしく食べられる期限**」  
 賞味期限は「おいしく食べられる期限」なので、賞味期限を過ぎててもすぐに廃棄せず、食べられるかどうかを自分で判断することが大切です。ただし、一度開封したら、期限にかかわらず早めに食べきりましょう。



### 消費期限と賞味期限のイメージ



食品の期限表示は、  
 「消費期限(過ぎたら食べない方がよい期限)」  
 「賞味期限(おいしく食べられる期限)」  
 の2種類あります。  
 いずれも、  
 ✓未開封のまま  
 ✓パッケージ等に表示されている保存方法により保存した場合の食品の期限表示です。  
 「賞味期限」の場合は、過ぎててもすぐに食べられなくなるわけではありません!

### ●すぐに食べる場合は、「てまえどり」

「てまえどり」とは、私たち消費者が、日頃の買い物の際、購入してすぐに食べるものについて、商品棚の手前にある商品など、販売期限の迫った商品を積極的に選ぶことです。「てまえどり」を行うことで、販売期限が過ぎて廃棄される食品の削減が期待できます。

食べものをつくる生産者・製造者への感謝の気持ちや、食べものを無駄にしない、「もったいない」という意識を持ち、食品ロス削減のためにできることから始めてみませんか。

高知県 文化スポーツ部 県民生活課 TEL.088-823-9653



高知家

## 令和4年度県民世論調査結果

### ●調査の設計

調査期間：令和4年8月19日（金）～9月13日（火）までの26日間

調査の対象：県内全域から18歳以上の県民3,000人を抽出（各市町村の「選挙人名簿」より）

有効回収率：55.7%

### 問1 あなたは、「食品ロス」が問題となっていることを知っていますか。（一つだけ○印）

項目	令和3年度	令和4年度	国調査※(R4.9月)
1 よく知っている	42.8%	42.8%	24.0%
2 ある程度知っている	47.4%	49.5%	57.1%
<b>知っている（1+2の計）</b>	<b>90.2%</b>	<b>92.3%</b>	<b>81.1%</b>
3 あまり知らない	6.6%	6.0%	11.0%
4 まったく知らない	1.8%	0.9%	7.9%
<b>知らない（3+4の計）</b>	<b>8.4%</b>	<b>6.9%</b>	<b>18.9%</b>
無回答	1.4%	0.8%	-

※令和4年9月に消費者庁が行った「令和4年度第2回消費生活意識調査」（以下「国調査」という。）

○ 本県では「知っている」との回答は92.3%、「知らない」との回答は6.9%で、全国と比べ、食品ロス問題を認識している県民の割合は高く、また、その割合は、昨年度の県民世論調査よりも2.1ポイント上がっている。

### 問2 あなたは、「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。（当てはまるものすべてに○印）

順位	選択肢	回答比率		
		令和3年度	令和4年度	国調査(R4.9月)
1位	残さずに食べる	64.6%	69.5%	61.1%
2位	「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する	61.3%	65.6%	48.4%
3位	冷凍保存を活用する	61.4%	61.5%	42.5%
4位	料理を作り過ぎない	50.0%	45.2%	32.7%
5位	期限間近による値引き商品やポイント還元の商品を率先して選ぶ	36.3%	38.4%	29.3%
6位	日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する	37.2%	33.3%	32.5%
7位	小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれる量を購入する	31.9%	30.6%	25.6%
8位	飲食店等で注文し過ぎない	29.5%	28.2%	29.7%
9位	残った料理を別の料理に作り替える（リメイクする）	25.2%	27.9%	22.4%
10位	商品棚の手前に並ぶ賞味期限の近い商品を購入する	10.2%	14.6%	14.5%
11位	外食時には、小盛りメニュー等希望に沿った量で料理を提供する店舗を選ぶ	5.5%	5.4%	7.9%
12位	取り組んでいることはない	2.1%	2.5%	13.7%
13位	食べない食品や利用しない食材等をフードバンクや子ども食堂等に寄附をする	1.7%	2.0%	-
14位	その他	2.0%	1.0%	0.4%

○ 回答の多い上位4位は、本県と全国は同じ順位で、食品ロス削減のために取り組んでいる内容は全国とほぼ同じ傾向。

○ 第10位の、「商品棚の手前に並ぶ賞味期限の近い商品の購入」は、今回の調査では14.6%と、昨年度より4.4%増加した。全国と同水準となっているが、取り組みとしてあまり進んでいない状況。

- 第13位の、高知県食品ロス削減推進計画の達成目標に掲げている「フードバンクや子ども食堂等への寄付は、今回の調査では2.0%と、昨年度より0.3%増加した。しかしながら、目標である令和7年度に3.4%を達成するには年間0.4%以上の増加が必要。引き続き、進捗状況を確認しながら必要な取り組みを進めていく。
- 食品ロス削減に「取り組んでいることはない」と回答した割合は全国と比べて大幅に少なく、食品ロスの削減に向けて行動に移している県民の割合が高い。これらの結果から、本県は全国と比べて食品ロス問題に対する意識が高いと考えられる。

●食品ロス問題を認知し、削減に取り組んでいる割合（問1及び問2を基に算出）

令和3年度	令和4年度	全国調査（R4.9月）	高知県食品ロス削減推進計画 達成目標（R7年度）
88.7%	90.5%	76.9%	90%以上

- 食品ロス問題を認知し、削減に取り組んでいる県民の割合は、全国と比べて多く、また、昨年度と比べて1.8ポイント増加しており、県内における食品ロスの認知度は着実に高くなっていると考えられる。「食品ロス問題を認知し、削減に取り組んでいる県民の割合を令和7年度までに90%以上にする」という高知県食品ロス削減推進計画の目標を達成している。

## 食品ロス実態調査結果

### 1 実施概要

■調査実施日	①高知市：令和4年11月22日（火） ②四万十町：令和4年12月5日（月）
■作業場所	①高知市：高知市清掃工場（高知市長浜 6459） ②四万十町：特定非営利活動法人四万十町環境・雇用創出協会（四万十町秋丸 186-2）
■作業時間	①高知市：9:00～16:30（昼食休憩1時間、準備片付け含む） ②四万十町：9:00～16:00（昼食休憩1時間、準備片付け含む）
■作業体制	委託事業者6名
■調査試料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査対象地域： 市街地、郊外（農村地域）の2地区。</li> <li>・試料重量： 各地区でそれぞれ約300～400kgを採取（合計約600～800kg）。</li> <li>・サンプル収集方法： 高知市及び四万十町がそれぞれ試料の回収を行った。</li> </ul>

### 2 高知市及び四万十町の前回調査との比較

		①1人1日当たりの食品ロス量 (g/人・日)	②①のうちの食べ残し (g/人・日)	③①のうちの直接廃棄(100%手付かず) (g/人・日)
高知市	今回 a	76.6	44.7	22.1
	前回 b	47.1	8.9	26.1
	差 (a-b)	29.5	35.8	-4.0
四万十町 (参考)	今回 a	50.8	24.6	20.3
	前回 b	23	9	15
	差 (a-b)	27.8	15.6	5.3

※調査結果に過剰除去量（不可食部分を除去する際に過剰に除去された可食部分）は含まない。

※四万十町は、前回実施した調査手法（モニター調査）と今回の調査手法（組成調査）が同一ではないため、参考比較とする。

※四万十町の前回調査では、③は、直接廃棄ではなく、「家庭から未使用品として排出されたもの」として調査している。また、四万十町の前回bについては、端数調整のため、②と③の合計値と①は一致しない。

※なお、今回の推計値については、現時点で公表されている資料等を参考に推計しており、今後より調査を実施した時期に近い数値が公表され次第、実態に即すように推計を改めることとする。